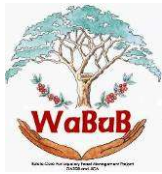


# WaBuB PFM News

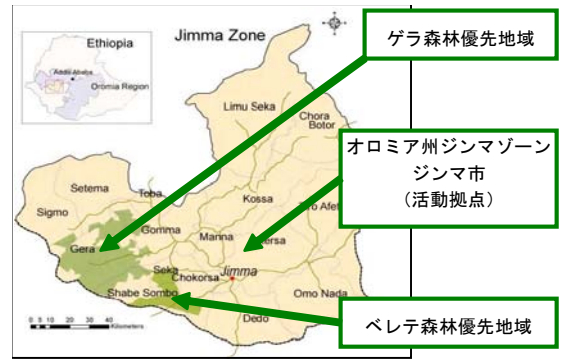
～Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management～



JICA 技術協力プロジェクト

エチオピア ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2007年6月15日発行 (第7号)



## 普及に向けた情報収集

ベレテ・ゲラ森林優先地域は、面積にして約17万4千ヘクタール(東京23区の総面積(約6万2千ヘクタール)の3倍弱)あるとされていますが、その中にどれだけの集落があるのか、人口は何人なのか、実は未だよくわかっていません。各村の普及員が WaBuB の普及活動と平行して、各集落の基本情報も収集しているところです。今までのところ、ベレテ・ゲラ森林優先地域内に合計で約120の集落が存在することがわかってきました。WaBuB の組織化は基本的に集落を単位とするため、ベレテ・ゲラ全体をカバーするには120もの WaBuB を結成することになります。生計手段や森林の状態なども集落によって異なるため、対象となる村々の生活形態に応じた生計向上活動などを行い、住民の理解を得ながら広げていく必要があります。残り3年あまりのプロジェクト期間で何箇所の集落で WaBuB を組織化するのか、どのエリア・集落で重点的に取り組むか…といった普及計画を第1ステージ内(今年9月末まで)に作成する予定です。

## ベレテ・ゲラ NOW ～WaBuB を始めよう! ②

前号では WaBuB を組織する前段階として、集落を決定し、村民や集落のリーダーに合意を得るまでの手順(ステップ4まで)を見てみました。今回は、各集落内で行なわれる WaBuB 組織化に向けた話し合いの内容、集落間、また集落内の森林と居住地の境界線の設定方法(ステップ5～7)についてご紹介します。

### ステップ5: 集落住民との会合

集落のリーダー達に WaBuB の概要を説明した後、集落の全住民を対象とした会合を開きます。主に集落のリーダー自身から住民に対し、「是非、WaBuB を結成し、共に森を守ろうではないか!」「WaBuB に参加すると、こんないいことがあるぞ…」といったような投げかけをしてもらい、住民からの同意を得ます。また同時に、WaBuB 準備委員会(WaBuB Facilitation Committee)の委員選出を行い、それぞれの役割分担を決めます。

#### WaBuB 準備委員会の構成員(例)

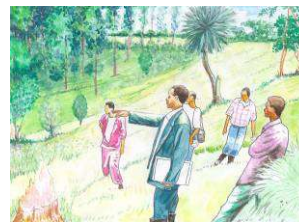
- |              |           |
|--------------|-----------|
| — 議長         | — 森林管理係   |
| — 事務(記録係)    | — 生計向上活動係 |
| — 会計         | — 地図作成係   |
| — 季節利用者との連絡係 |           |

### ステップ6: WaBuB 準備委員会との協議

森林管理契約を作成し、正式に WaBuB が結成されるまでの準備を、WaBuB 準備委員会が住民の代表として行います。具体的な取り組みに先立ち、普及員が委員に対し WaBuB の役割や森林管理契約の内容、今後の手続きについて説明すると共に、留意点やスケジュールを協議します。



### ステップ7: 集落境界の確認、地図の作成

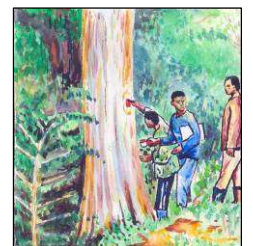


WaBuB の準備段階で最も重要と言える作業が、集落の地図作りです。地図には、隣接する集落との境界の他、森林と居住地・農地の境界などが示されます。地図を作ることにより、集落の住民が責任を持って管理しなければならない

森林はどこなのかを明確にすると共に、森林の境界が明確になることで、農地や居住地が森の中へ拡大していくことを抑制する効果が期待できます。

手順としては、まず WaBuB 準備委員会と普及員とで地図の下絵を作成します。この下絵には、隣接する集落との境界や森林と居住地との境界の他、どのエリアで隣の集落との境界争いが起こる可能性があるか(境界線が不明確な場所等)…といった情報を記入し、特に注意を要するエリアを皆で確認します。

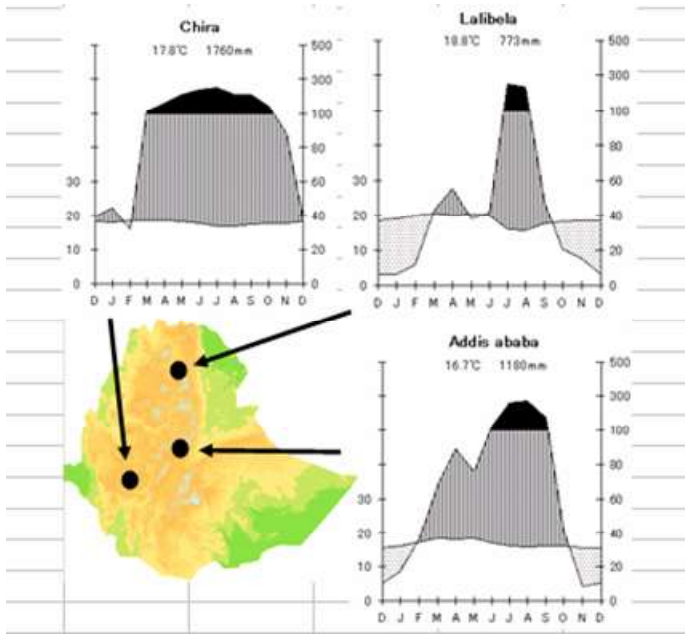
下絵に基づき、実際に森の中を歩いて境界を確認します。この時には、準備委員に加え集落の他の住民、また隣接する集落の住民の代表も交えて境界を確定していきます。どこが境界なのかわかりやすいよう、大きな木や岩にペンキで印をつけます。しかし、集落によっては「おれらの森は、この小道までだったはずだ!」「いや、あの木までは昔からうちの集落の森だ!」といったように、隣の集落ともめることが予想されます。集落間でもよく話し合って合意できればいいのですが、いっこうに決着しない場合には、郡行政にも仲介に入ってもらうなどして解決を図ります。



境界が確定されたところで、郡やゾーンの森林官が集落地図を作成します。その後、森林の利用者(WaBuB のメンバー)の登録作業に入っていきます。(次号へ続く)

WaBuB は、現地オロモ語で(地域住民により組織される)森林管理組合の略称、PFM(Participatory Forest Management)は参加型森林管理の略称です。よって、WaBuB PFM は、本プロジェクトが確立・普及を目指す WaBuB による参加型森林管理方法を意味します。

## ベレテ・ゲラにおける気候の特徴



エチオピアと聞けば、乾いた大地を想像される方も多いかと思います。実際、エチオピアの北部、北東部の多くの場所では、岩肌がむき出しの山々や、石がゴロゴロとした乾いた土漠が広がっています。このような地域では、雨季の数ヶ月に比較的多く降った雨が降るだけです。

上の降水量・気温のグラフを見てみましょう。北部に位置し、岩窟教会群が世界遺産にも指定されているラリベラ(右上)では、年間降水量は773ミリと少量で、6月下旬から8月にかけてまとまった雨が降る以外は、小雨の3月中旬～4月中旬を除けば、乾燥した月が続くことがわかります。一般的に、アディス・アベバの降水量グラフ(右下)が示すように、エチオピアでは2度の雨季があると言われています(本雨季:6月下旬～9月、小雨の3～4月)。

しかし、ゲラ郡の中心地チラのグラフを見てみると(左上)、12～1月の2ヶ月を除き、ほぼ1年を通して雨が降っているのがわかります。年間降水量も1,760ミリにのぼり(エチオピアの平均降水量は1,000mm程度)、東京の年降水量1,500ミリより多くなっています。平均気温も1年中ほぼ20度前後で一定しており、ベレテ・ゲラ森林エリアは、熱帯雨林に近い気候となっているのです。このため、年間を通して森は深い緑に覆われ、多くの川も流れています。

下の写真(ラリベラ周辺の山とゲラ森林)を比べてみてください。同じエチオピアでも、これだけの違いがあります。エチオピア国内に残る森の中でも(国土の約12%程度)、特に緑豊かで水も豊富なベレテ・ゲラ森林を守っていくことは、地球環境保全の視点からも、とても重要なことだと感じています。



ラリベラ周辺の風景



ゲラ森林とナソ川

## ベレテ・ゲラの有用樹種

### Chat (*Catha edulis*)

ジンマの町中や農村で、男達がムシャムシャと葉を噛んでいるのを見かけます。オロミア語でチャットと呼ばれ、軽い覚醒作用があるとされています。エチオピア南西部の標高1,400~2,200mの高地で主に栽培される低木で、その新芽を収穫(年に3回程度可能)し、覚醒効果が続く24時間以内に市場へ出荷します。近年はコーヒーよりも商品価値が高いとも言われており、ベレテ・ゲラ内でも特に交通の便が良い道路沿いでは、敷地内でチャットを栽培する農家が増えています。



チャットを売る青年  
(後方はチャットのプランテーション)

エチオピアにおける農産物の輸出(金額ベース)では、コーヒー(35%)、脂肪種子(21%)に次ぐ3位(9%)を占め、その割合は年々増加しています。主にサウジアラビアやジブチなど中東諸国の他、英国へも毎日のように輸出されています(米国では違法扱い)。一方で、エチオピア国内におけるチャット中毒者も増加しており、その促進については懸念の声も多いようです。

短期専門家の小川です。現在2カ月の予定で、ファーマーフィールドスクール(FFS)を使った技術普及活動をWaBuBに移植するための下準備を担当しています。FFSに関してはケニアでも同様の作業をやってきましたが、エチオピアのこのプロジェクトでは自然環境も人々の伝統も大きく異なり、男性が同席していると女性があまりしゃべれないとか、文盲率が非常に高いとか、クリアしなければならぬ問題点も多く、うまいFFS学習計画ができあがるか大変心配です。中でもグループダイナミクスというメンバーの活性化作業は、シャイなエチオピア人では期待できないというのがいままで聞かされてきた話でした。しかし、エチオピア人(女性)も町で実際に会ってみると、どうしてどうして結構くたくたく話をしてくるので、村でも案外いい雰囲気作りができるんじゃないかと期待もしています。

アグロフォレストリー技術面で考えてみると、コーヒーや果樹が結構メインになりそうですが、これは協力隊員時代にコロンビアでさんざん作ってきた経験もあり大変懐かしかったです。ここではアンデスの果樹とかも結構使えると思います。ヨーロッパ人はエチオピア高地を称してアフロ・アルパインとかいうそうですが、私にとってはエチオピアはアフロ・アンデスですね。いろいろな国の技術や経験も生かしつつ、対象村落にあったうまいFFS学習パッケージができあがることを祈っています。(小川慎司)

### 7月中旬までの主な活動予定:

- 6/3: 小川短期専門家(農業・アグロフォレストリー技術普及)赴任
- 6/13-15: ベレテ森林チャッフェ集落における森林合同モニタリング
- 6/15-17: ゲラ森林アファロ集落における森林合同モニタリング
- 6/22: 萩原短期専門家(FAO Investment Center)赴任
- 7/月上旬: WaBuB 普及戦略の策定ワークショップ